

松平忠固研究プロジェクト発足

布施 修一郎 (6組)

3月16日、信濃毎日新聞23面に、「松平忠固研究プロジェクト」が立ち上がったとの記事が掲載された。3月13、14、15日にプロジェクトメンバー13人が忠固公に直接関わる資料の確認調査、新情報掘り出しと、上田市の概観を知るべく視察を行い、その最終日に行った記者会見の内容を記したものです。

上田松平藩子孫を中心とした明倫会の会長の任にある筆者は、全行程の初日に帯同、2日目の懇親会に出席した。初日は、松平家の菩提寺である願行寺の本堂に集合、相互紹介をして3日間での収穫を祈り出発式とした。女性を含めあちこちの大学の大学院で忠固を研究する若者が数名いることには驚き、頼もしさを感じました。続いて、同寺の墓地にある松平家の墓参りを行い、次に、月窓寺の赤松小三郎の墓見学、本陽寺に移築されている上田藩主屋敷の玄関屋根の見学を行い、NHK「ぶらタモリ」で有名になった街中の蛭沢川の暗渠を経て、柳町の街並みに入り岡崎酒蔵にて大奥様よりお話をお聞きし、赤松小三郎生誕の地に寄り、調査の前準備をしに市立博物館へ。2日目は博物館での資料確認調査、情報掘り出しが行われ中でも我が家の隣(現在はミカエル保育園)におられた同じ御殿医の林家が何かに関連するらしいことを見つけた院生が、懇親会の席上で私に林家のことを聞いてきました。林家は佐久間象山と親戚で、松代から大宮さん(常田毘沙門堂)の活紋禅師に教えを受けにきていた為、通ってくるたびに林家に寄り布施家にも顔を出し、すでに種痘を実地していた象山が痘苗を携え林家の林修庵に術を伝え、林修庵、布施祐碩の2名が上田藩で初めて種痘を行ったと先祖より伝え聞いた話をしたところ、院生達は興味津々の様子であった。尚、私の高祖父の祐碩は、忠固が大坂城代となった際随行し、緒方洪庵塾にて佐久間象山とも同席し旧知の中であったとも聞いている。懇親会の席上には、忠固の命により横浜に生糸の貿易場を開設した、婦恋村の中居屋十兵衛顕彰会の会員数名、生糸とイタリアの関係を調べていた65期同期の故矢島好高君の妹さん矢島万起子さん(日伊協会長野会員)も出席されていた。3日目は、蚕種をフランスにまで輸出していた市内上塩尻の藤本蚕業歴史館(佐藤一族)を訪れ収穫があったようです。

このプロジェクトへの資金提供は、元々、上田にも松平家にも縁もゆかりもない東京の会社社長 M 氏が、リーマンショックの時に日本の貿易について調べ、先駆者は松平忠固であると確信を持ち、大河ドラマ用のシナリオまで執筆されていたことを SNS 上で知った筆者が連絡を取り、プロジェクトチームへの参加、資金的支援までに繋がってきました。ネットの良さの典型だと思います。若い研究者が多いので SNS を活用しての新発見なども大いに期待できます。

記事の内容は信濃毎日新聞のニュースサイト[信毎 web] の記事「幕末の上田藩主・松平忠固の業績、大学教授ら発信へ」

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2023031600022>

をご覧ください。